

令和4年度



東明小だより

第10号

令和4年12月26日(月)

伝統的な文化に触れる、親しむ ～修学旅行・お茶・俳句～

校長 奥村 哲也

12月1日(木)～2日(金)、6年生は、1泊2日で、奈良・京都へ修学旅行に行ってきました。1日目は、法隆寺・東大寺、2日目は金閣寺・清水寺などを見学しました。奈良東大寺の大仏殿では、「すごい。思っていたよりはるかに大きい。」と驚嘆の声が、金閣寺では、「輝いてる。とってもきれい。」と感嘆の声が上がっていました。社会科の歴史学習の一環として、調べ学習に取り組んだ後の見学でしたが、歴史的遺産を実際に見ることで、本やインターネットからの情報では得ることができない本物の空気を体感することができました。



2022/12/01 法隆寺にて



2022/11/08 6年生「お茶会」の様子

11月の参観日、6年生は「親子会」として「お茶会」を行いました。クラブで指導していただいている二本柳先生に教えていただきながら、お茶を点て、保護者の方にふるまいました。練習の成果あって、茶筌を回す手つきもなかなかのもので、お茶を通して日頃の感謝を伝えようとする子どもたちの気持ちが滲み出ていました。日本の伝統文化である「もてなしの心」に触れることのできる時間になったと思います。子どもたちは、『「ちょっと濃いね」と言われたけど、お母さんに喜んでもらえてよかった。』などと嬉しそうでした。

「ギター之音 川面をなでる 秋夕焼け」

中日新聞の「東濃総合面」に掲載された、久保下千鶴さん(6年生)の俳句です。「写真で詠む五七五」の欄に「イチオシ作品」として紹介されました。作品評には、「聴覚や肌感覚に訴える言葉、色が伝わる季語、言葉選びが良いですね。」とあります。5・6年生の国語科の学習には、日本の伝統的な言語文化に親しむために、短歌や俳句作りが取り入れられています。6年生が国語の授業で作った俳句を投稿したところ、久保下さんの作品が選ばれました。

小学生の多感な時期にこそ、伝統的な文化に触れ、親しむことができるようにしたいものです。その経験が、自分の生きる「根っこ」となり、アイデンティティの確立につながっていくと思います。さあ、いよいよ冬休み。年末年始を迎えるこの時期には、伝統的な行事がたくさんあることでしょう。そうした伝統的な文化にぜひご家族で親しんでいただけたらと願います。「かるた」や「百人一首」で、家族一緒に遊んでみてはいかがでしょうか。